

施策分析シート

No1

施策名	子どもの安全対策	施策No	12-05	部課名	教育委員会事務局 庶務課
				課長名	岡本 壽子 内線 3310
関連部課名	総務企画部総務企画課、区民生活部地域振興課				
行政評価事業体系	分野	防災・まちづくり・環境分野			
	政策	安全・安心まちづくりの推進			

目的

荒川区立の小中学校、幼稚園における安全対策については、これまでもソフト、ハードの両面にわたり様々な施策に取り組んできた。しかし、他の自治体では、小学校低学年児童が犠牲となる大変痛ましい事件が相次いで発生しているところである。

いっどこで起こるかかわからない犯罪を防ぐには、多くの人の目が必要であり、多くの人が児童の安全を見守ることが、犯罪者への抑止力となる。したがって、行政、警察、学校、PTA、区民等が力を合わせ児童を見守ることにより、犯罪の発生を抑止し、明日を担う児童が安心して暮らすことのできる社会を実現する。

	施策の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (28年度)	
①	指導員配置時における児童の交通事故発生件数	0	0	0	0	
②	小学校内への不審者等侵入件数	0	0	0	0	
③	学童クラブ内への不審者等侵入件数	0	0	0	0	
④	学校情報配信システム登録率	小学校 60.2%	小68.5% 中41.8%	小73.3% 中52.3% 幼46.4%	小80% 中80% 幼80%	
⑤						

現状と課題

児童の安全対策は、シルバー人材センターへの委託及びPTAや地域ボランティア等の協力により様々な施策を実施している。

しかし、学校におけるボランティアの登録状況は各学校によって異なり、多くのボランティアの協力がある学校とボランティアの協力が少ない学校もある。また、学校によっては、ボランティアと学校が連携する組織を設置した学校もあり、学校及び地域によって、安全対策への取り組み状況が異なっている。また、児童の安全対策は、保護者が中心となって地域の力で継続的に実施していく必要がある。

今後の方向性

現在、実施している児童の安全対策に関する施策については、児童の命と安全を守るために必要な事業であり、継続的に実施していくことが不可欠である。また、継続的に活動していくためには、より一層の地域の協力が必要である。

したがって、学校安全ボランティアの拡充及び継続的な活動ができる体制を整えるため、ボランティアの組織化を推進していく。

施策の優先度	優先度についての説明・意見等
A	子どもの安全対策としては、児童安全対策協議会を組織し区を挙げて取り組んでいるところであり、今後も、児童の命と安全を守るため、施策の優先度は高い。ただし、ソフト事業について地域全体の取り組みとして、実施内容の見直しは不断に必要である。

